

平成 23 年 9 月 29 日

雲南市議会議長 藤原 政文 様

ダム対策特別委員会
委員長 土江 良治

ダム対策特別委員会行政視察研修報告

下記のとおり視察を行いましたので、その結果を報告します。

記

1. 視察研修先 ①温井ダム（広島県安芸太田町）
②木屋川ダム（山口県下関市豊田町）
③弥栄ダム（広島県大竹市）
④土師ダム（広島県安芸高田市）
2. 視察研修日 平成 23 年 7 月 21 日（木）～22 日（金）
3. 視察研修参加者 ダム対策特別委員会
【委員長】 土江 良治 【副委員長】 村尾 晴子
【委員】 佐藤 隆司 周藤 正志 高橋 雅彦 加藤 欽也
藤原 政文議長 同行
【随 行】 議会事務局 原 淳夫

4. 背 景

尾原ダムは実質的に完成し、ハード事業として後は県のボート競技施設整備と下布施残土処理場の完成を待つだけとなった。

一方、ソフト事業として、“さくらおろち湖”と命名されたダム湖周辺は、“100 年先も誇れる森づくり”を目指し、これから随時植栽計画が実施に移される。

こうした計画が順調に実現するに呼応するかのようには高速自動車道尾道松江線の三次道の開通が目の前に迫ってきた。

「ダム対策は実質終わった」これからは「半世紀の歴史を尊重し、いかにしてダム周辺に賑わい対策の出発点」。よって尾原ダム湖周辺の地域づくり・活性化がいま求められている。

5. 視察研修の目的

私たち一人ひとりに個性があるように、それぞれのダム湖周辺にも個性がある。「ダムで栄えたところはない」と言われるなか、その個性的なダム湖を中心に個性的な景観づくりや多彩な集客アイデアが展開されているところもある。

今後ダム対策特別委員会として、行政あるいは住民の自主的な動きによって立ちあがった組織にどのように提言し、どのように協働のダム周辺の地域づくりができるのかを模索するため、4つのダムを選び視察し調査研究するものである。

以下の項目について重点的に話を伺った。

- ①湖面利用について
- ②湖畔利用について
- ③周辺整備について
- ④地域活性化団体のとのかかり状況について
- ⑤ダム湖を取り入れた今後の周辺活性化策について

6. 研修まとめ

①温井ダム（広島県山県郡安芸太田町加計）

特定多目的ダムとして平成13年に建設された高さ156メートルで西日本随一の高さを有するアーチ式コンクリートダムである。ダム湖は「龍姫湖」と命名され、ダム湖百選にも選ばれ、広島県の主要な観光地となっている。年間観光客は80万人余前後で推移するなど、旧加計町が目指した地域振興策は成功をみている。

（出典：フリー百科事典『ウィキペディア』より）

年間80万人余の観光客。その理由は一目瞭前であった。それは、

1. 活性化の仕掛人 温井ダム管理所長が駐在していること
2. 日本で第2の高さを誇るアーチダムであること
3. 洪水吐から吐き出される迫力あるアーチ型の放流の大きさを眺められるダム直下展望施設をもっていること
4. ファミリーも楽しめるいろいろな施設を備えていること

これらは真似の出来ないことで、嘆いても仕方がないこと。しかし、湖畔利用、ダム本堤壁面利用の説明は感心するやら、よくもここまで考え付かれるものだと感じた。

ひとつは平成22年に実施されたコース88キロ、最大高低差854メートルの「しわい（過酷）マラソン」である。過疎高齢化のしわい現実、太田町全体がひとつになるイベントを行おうと住民マラソン大会を提案したもので、参加料14,000円で200人募集したところすぐに締め切らざるを得ないほどの大盛況であった。実行委員会や住民はコースの清掃、おむすびの提供などでもてなし一体となった。広島の名物レースに発展を期待し、今年は先

着 300 名の参加者を募集される。

もうひとつは管理所長の奇抜な発案のダム本体をスクリーンにして映像を音楽でいろどる催しである。温井ダムの本体前面は垂直、尾原ダムは斜面。見学席？でちょっと無理かも……。しかし湖畔の広場を利用した「さくらおろち湖映像祭」は可能である。一考に値するヒントになったと思った。

ここ温井ダムは堤体内の階段、エレベーターが常時開放されていることには不思議を感じた。

尾原ダムも自由に直下に下りることが出来れば観光客増につながる思いがした。

他に湖面利用として修学旅行や教育旅行の誘致を目指してカヌー教室なども開いている。



堤体の下で植田所長から説明を受ける

②木屋川ダム（山口県下関市豊田町）

補助多目的ダムで昭和 15 年に着工、太平洋戦争で中断、昭和 25 年に工事を再開、昭和 30 年に完成した重力式ダムである。

ダム湖は豊田湖と名付けられ、公認ボートコースが設置され 2011 年山口国体ボート競技会場となった。広い湖面を生かした漕艇の練習や冬場のワカサギ釣りで広く利用されている。湖畔の利用ではオートキャンプ場も整備され、グループでの利用も多い。

湖畔公園は県立自然公園となっており、野外ステージやケビン、ボート桟橋、イベント広場、バーベキュー施設なども備えている。



1 億円で整備されたボート桟橋

当日説明用に用意された資料によると、施設利用者数（但しボート利用者を除く）は 1 万 2 千人～1 万 3 千人、施設利用収入は 1,800 万円～2,100 万円余りで、収支は近年 8 万円～115 万円の赤字である。

県立自然公園と言いながら、利用しあぐねていると感じた。

いま尾原ダムの“さくらおろち湖”でワカサギの養殖、放流が実験されている。冬が来ても凍らない尾原ダム湖で穴を開けた氷上釣りは不可能である。岸边からと思っても釣り糸を垂れるようなところはほとんどない。“ならば船だ。舟桟橋が必要だ”。ボート桟橋があると言うから興味深く見学した。相当大きなものであったが、値段が 1 億円と聞いて一同びっくり。ボート競技施設のボート乗艇場を利用するにしても 1～2 個所の安価な丸太桟橋の必要性を改めて感じた。

③弥栄ダム（広島県大竹市小方町）

多目的ダムとして昭和 48 年着工、平成 2 年完工。中国地方最大級のスケールの弥栄湖。平成 17 年 3 月“ダム湖百選”にも選ばれているほどの湖である。

周辺施設はレストランやさか、美和パークゴルフ、やさかキャンプ村、弥栄湖スポーツ公園、弥栄レンタルボート、カヌーフィールドと賑やかである。

印象に残るは奇岩つらなる弥栄峡を従えた弥栄キャンプ場の小瀬川の砂浜とパークゴルフ場とその先の湖面の水を噴き上げる噴射式表層水循環装置。

湖面利用は管理事務所長と岩国市長が「弥栄ダム湖面利用についての協定」を締結し、毎年「弥栄ダム湖面利用計画」が取り交わされ利用されている。

このダムの特徴は、ダム湖内に県境があるため整備された諸施設は岩国・大竹市からの指定管理で「株式会社やさか」が管理運営を行っている。

部門別集客者数は、レストランが 4 万 5 千人～5 万 7 千人、スポーツ公園が 1 万 6 千～2 万 4 千人となっているが、全体では平成 18 年度の 11 万 4 千人から平成 22 年度には 9 万 7 千人と下降気味であった。

営業損益でみるとレストラン、パークゴルフ場、レンタルボートで稼いで、キャンプ場、テニス、清掃、情報センターのマイナスを補っている。こうして平成 21 年度は 2,847 千円の営業収益を生み出していた。湖中にはブラックバスがいてバス釣り競技を行っており、平成 22 年度は 4,396 人の大会参加者があった。湖内には遊覧船を走らせてもいる。

ここでも地域の小学生が社会見学の一環として堤体内外の学習に訪れ、一方、テニス大会、パークゴルフ大会、カヌー教室など流域住民交流促進や、物産店、芸能大会、10,000 歩ラリー大会等地域住民による地域活性化が促進されている。

湖畔には“桜いっぱいプロジェクト”による個人の記念植樹も実施され湖畔を桜一杯の名所にしようと励まれている。

高値の施設のないものねだりは出来ないが「尾原ダムさくらおろち湖まつり」の充実、平地の有効利用の検討など頭に描いた。



広大なグラウンドゴルフ場の向こうに見える曝気噴水

④土師ダム（広島県安芸高田市八千代町）

昭和 45 年工事着工、昭和 49 年 3 月本体工事完了の多目的ダム。平成 16 年ダム完成 30 周年を祝っている。湖名は“八千代湖”視察資料によると昭和 50 年から平成 11 年までの

25年間に周辺環境整備に投資された額は80億8千万円。サイクリングコース、テニスコート、野球場、サッカー場、キャンプ場、宿泊入浴施設、6千本の桜の植樹等なんでもありの充実ぶりで、年間30万～35万人が訪れる観光名所となった。

平成6年の広島アジア大会、平成8年の広島国体カヌー会場にもなり「カヌーの八千代を売り込む」と意気込んでいた。しかし、今はほとんどボート競技は行われず、立派な艇庫だけが国体時の面影を残していた。一方、現在の観光客数は激減し、入湯、宿泊機能をもつサイクリングターミナル施設などの老朽が著しく、建替え期に入っている。観光客激減により、このサイクリングターミナルも入湯、宿泊機能を廃止し、レストラン機能だけ残した改築をするという。

いま周辺施設の維持管理は、財団法人八千代町開発公社が指定管理を受け、サイクリングターミナルを2,000万円、周辺管理2,400万円の管理料で行っているが厳しいということである。

最大の利用者だった学校の遠足が少子化などで減少し、隣の旧美土里町や高宮町に温泉施設などが誕生し客が流れたことが要因としてある。これまでは待っていても人が来たので集客努力が足りなかったのではないかと思った。



夏にはこの八千代湖で花火大会が開催される

八千代湖にはブラックバスもいるし、ウナギ、フナは放流され、湖釣りには漁業権が必要である。

イベントの開催状況は、桜まつり、交流ボート大会、花火大会(2,000発、来場者2万人)湖畔マラソン、里山保全祭り等がある。その他に各種教室の開催状況としてBMXスクール、カヌー教室などが開催されていた。

目を見張るイベントに湖上花火大会があった。上空と水面に炸裂花火はさぞかし壮観であると思えた。筏上からの打ち上げ花火、一考に値するイベントである。しかし、岩伏山にクマタカが・・・との思いが一方では交錯もした。

⑤全体を通してのまとめ

視察先の4つのダムともダム建設時は高度成長期であった。尾原ダムのことを思えば風光明媚、ダム本体そのものが持つ機能、そして周辺施設整備も至れり尽くせりの感で見させて頂いた。

元氣力から言えば温井ダムであろうか。まざまざと一人のリーダーの存在を見せつけら

れた。外については通信簿に例えれば、普通かやや劣るであったように感じた。そして、施設については、有り余る施設も困るがあまりにないのも困ると思った。

尾原ダムを中心とした地域づくりに、今回の視察を参考に取り入れるべきものとして考えられるものを列記すると以下のようなことになる。(順不同)

- ・ 8 8 K 8 8 8 M 湖畔マラソン大会 (8 にこだわる)
- ・ 湖上花火大会
- ・ かがり火神楽競共演大会
- ・ さくらおろち湖映画祭 (例、湯布院映画祭)
- ・ ワカサギ釣り大会
- ・ 秋の湖畔秋葉ウォーク

など大会事業費のことを抜きにして考えられるものとして列記した。